

2021 年度基盤教育機構 FD「ワイガヤ研修」実施報告

清水 栄子・ソーントン キャサリン

Report of FY 2021/2022 Faculty Development “Waigaya” FD Program
in the Institute of Liberal Arts

Eiko SHIMIZU, Katherine THORNTON

【キーワード】 ファカルティ・ディベロップメント、オンライン授業、
105 分授業導入、「知の探究」科目、アンケート

1. はじめに

「ワイガヤ研修」は、基盤教育機構の教員を対象としたファカルティ・ディベロップメント (FD) である。ほぼ月 1 回ペースで機構会議終了後にオンライン会議システムを利用して実施してきた。2021 年度の春学期と秋学期はそれぞれ異なる形態で実施した。春学期は共通テーマに基づいた継続的な研修であり、秋学期は各回とも異なるテーマによるものであった。

春学期は、参加教員の授業運営上の課題とその改善をテーマとして取り上げ、グループ活動を中心に取り組んだ。このテーマに取り組んだ主な理由として次の 2 点が挙げられる。オンライン授業を充実させる取り組みの必要性が 1 点目の理由である。昨年から終わりをみないコロナ (COVID-19) 禍は、高等教育に大きな影響を与えた。その 1 つが急速に導入されたオンライン授業である。昨年度、基盤教育機構では、梅村修機構長に任命された教員を中心に、オンライン授業に取り組んだ。今年度は充実した教育を提供する方法・ツールとして、オンライン授業のさらなる工夫が必要とされている。2 つ目の理由として、本学の 105 分授業および毎授業時評価の導入が挙げられる。今年度からの変更であるため、各教員による担当授業の再設計や授業運営の再検討が行われ、春学期から実際に 105 分での授業がはじまった。そのため授業運営上で何らかの課題や必要な改善事項があるのではないかと、という仮説のもと、梅村機構長とも相談し、この課題に継続して取り組むことにした。

秋学期のテーマや内容については、事前に実施したワイガヤ研修についてのニーズアンケートの回答結果に基づいて計画した。これまでのワイガヤ研修では、FD 委員が中心となり、研修の実施時点でニーズが高いと考えられる内容を取り上げて企画し、適宜梅村機構長に相談のうえ、実施してきた。構成員の意見やニーズを反映させたワイガヤ研修にするために、秋学期はこの方法を選択した。

本稿では、2021 年度ワイガヤ研修の実践報告およびその成果と課題について述べる。まずワイガヤ研修の実施概要、そして春学期・秋学期それぞれの実践内容をまとめる。次に、秋学期のワイガヤ研修のために実施したニーズアンケートの回答結果について紹介し、最後にその成果と課題について述べる。実践報告は、春学期・秋学期それぞれの研修形態に添って整理する。

2. ワイガヤ研修の実施概要

春学期のワイガヤ研修は、各教員の担当授業に関する課題を共有することからスタートした。個人ワークおよびグループワークを通して、オンライン授業および 105 分授業に関して参加者に共通する課題が明らかになった。そのうち主な 3 課題に絞り、参加者の希望で取り組む課題ごとにグループ分けを行った。課題の共有および改善案を含めたグループ活動を行い、その結果を全体で共有した。

秋学期は FD 研修に関わるニーズ調査を行い、その結果をもとに各回の内容を検討した。アンケートの集計結果は後述するが、企画にはその回答内容をほぼすべて取り込む形で計画できた。

形態は異なるものの参加者のニーズに添った研修運営が、春学期および秋学期に共通する目的であった。なお、2021 年度のワイガヤ研修の実施記録は、表 1 のとおりである¹。

表 1 ワイガヤ研修の実施記録

回	月日	内容
1	4 月 22 日	オンライン科目検討ワーキンググループでの議論に関わる意見交換
2	5 月 27 日	オンライン授業、105 分授業導入に関わる意見交換
3	6 月 17 日	共通課題に関するグループ活動①
4	7 月 15 日	共通課題に関するグループ活動②
5	8 月 31 日	共通課題に関するグループ活動の全体発表
	9 月 30 日	「秋学期の FD に関するアンケートの」実施 (実施期間：9 月 30 日～10 月 7 日)
6	10 月 21 日	アンケート結果の報告および課題に関わる全体討論 (授業での動画の利用方法に関する意見交換)
7	11 月 11 日	「知の探究」科目について (その 1：中間報告) 東田充司先生
8	12 月 2 日	中間アンケートについての議論 (授業の改善法)
9	2 月 15 日	「知の探究」科目について (その 2) ¹ 武田裕紀先生 (予定)

1 本稿作成時 (1 月中旬) は実施前のため、予定として記載する。

3. 春学期のワイガヤ研修について

第1回ワイガヤ研修は当初予定を変更して、オンライン科目検討ワーキンググループでの議論に関わる意見交換を行った。企画および進行については、同ワーキング委員の松家裕子先生と相談のうえ行った。最初に松家先生による趣旨説明が行われた。その後は、オンライン授業および対面授業を実際に担当している中で感じていることを踏まえて、授業形態を決定する際の留意点、基準、条件についてグループで協議を行った。グループの協議内容は発言者を匿名にして資料を作成し全体で共有するように依頼した。各グループの協議資料は、グループウェアサイボーズ Garoon 内の「2021 基盤教育機構会議資料およびお知らせ等の共有スペース」²（以下、「基盤教育機構スペース」という。）に掲出・共有された。この基盤教育機構スペースには同機構所属の全教員が登録されており、掲載資料は自由に閲覧可能である。

第2回ワイガヤ研修は、個人ワーク、グループワークそして全体共有の3段階で構成した。個人ワークでは、担当授業のうち教育改善が必要だと思う1科目を選択し、課題と考えていることをワークシートにまとめてもらった。次にグループに分かれて、個人ワークで挙げた課題を共有し、それぞれの改善策について協議した。協議内容はグループごとにパワーポイント1枚程度にまとめ、基盤教育機構スペースで共有された。各グループから挙げられた課題には、共通するものが多かった。

第3回ワイガヤ研修は、第2回の協議内容で明らかになった共通課題からFD委員が予め主な3項目に絞り、グループ活動で取り組むよう計画した。3項目は以下のとおりである。

- (1) 授業運営
- (2) 15回（90分）から13回（105分）への移行
- (3) 毎授業評価の方法

基盤教育スペースにこの3課題を掲出し、google フォームを用いて、どの課題に取り組みたいかを事前に尋ねた。回答結果をもとに3名グループを編成した。(1) 授業運営は3グループ、(2) 15回（90分）から13回（105分）への移行は1グループ、(3) 毎授業評価の方法は2グループの計6グループで活動を行うこととなった。課題に関する意見交換そして改善策の検討を最終目標とした。

第4回ワイガヤ研修は、前回に引き続きグループ活動の時間とした。グループ活動については、各グループに一任した。そのためワイガヤ研修以外の時間に活動をしたグループも見られた。

第5回ワイガヤ研修は、各グループによる取り組みを全体で共有する時間とした。すべてのグループが資料を準備のうえ発表した。これらの資料も、基盤教育機構スペースに掲出された。掲出資料をあらためて確認してみると、それぞれのまとめ方に特徴がある。(1) 授業運営と(2) 15回から13回への移行に取り組んだグループは、各教員が考えた課題とその改善策についてまとめられている。春学期の期間内に改善策を実際に実行できた授業もあり、その場合は成果まで言及され

2 サイボーズ社のウェブサイトによれば、「スペース」は組織を横断したメンバーでプロジェクトを推進するためのアプリケーションであると説明されている。https://garoon.cybozu.co.jp/mtcontents/cases/roundtable/space/#heading_01

ている。一方で改善策の実践にまで至らなかったグループでは、秋学期に実践するというまとめになっている。一方(3) 毎授業評価の方法に取り組んだグループは、それぞれの担当授業の授業形態と毎時間評価、困っている点、前年度評価との変更点、工夫している点などについてまとめられている。以下、発表資料の一部を紹介する(表2)。

表2 グループ活動発表資料

(1)	【課題1】 学生が毎回同じような課題をコメントシート記入することに飽きてしまう。
	【改善】 授業内容からキーワードを3つ挙げ、その3つのキーワードを使って感想を記入するように変更。
	【成果】 これまでと違った記入式ということで、コメントに緊張感が出た。こういう質問のバリエーションができるとうい。
	【課題2】 Zoomでのブレイクアウトルームでのグループワークがうまくいかなかった。学生の顔出し、マイク操作などにも課題あり。
(2)	【改善】 事前の指示を細かく行う、グループワークの目的を明確にする、グループ内での役割分担の設定、顔出しについては強制はしないが効果があることを説明し、マスクをしてもよいと説明。
	【成果】 学生が楽しそうにワークを行っていた。ほぼ全員が顔出しをした。
	【課題】 講義科目において+15分をどのように行えばよいか。
(3)	【改善】 ①休憩(5分)を挟む、②講義+原典解釈、③前回の復習+講義+コメント記入、④小課題(予習相当)への回答解説+講義、などいくつかの授業構成に関する提案。
	【成果】 秋学期に実践を検討する。
	・毎時間評価について、同タイプの授業の中においても差異が見られた。評価とは自ずと同一になるものではなく、授業者の設定する目標や特性によるものであるという前提の上で、まずは同タイプの授業群内での情報共有、実践交流を行ってみることも評価方法改善へのスモールステップとなるかもしれない。
(3)	・評価はもとより目標と呼応するものであるもので、毎時間の授業目標の明確化と周知、目標と評価を受講者といかに共有出来ているのかが重要になってくる。

※表中の(1)は授業運営、(2)は15回(90分)から13回(105分)への移行、(3)は毎授業評価の方法をそれぞれ指している。

4. 秋学期のFDに関するアンケートについて

秋学期のワイガヤ研修をよりよい研修とするために、構成員の希望するテーマ、おすすめのスピーカーや講演会についての意見や情報収集を目的として実施した。設問とその回答は表3のとおりである。

表3 FD に関するアンケートの設問と回答

1. 秋学期のワイガヤ研修で取り上げてほしいテーマについて具体的にお聞かせください。 ・ 授業実践の共有 ・ 3名グループで順番に自身の授業実践を一例にして話題提供と意見交換（他大学の先進事例などは、環境が違うといった距離ができてしまうので、自大学の情報共有によって、互いに相談しやすい雰囲気づくりがよいと思いました。） ・ 参観授業を伴う実践研究 ・ オンライン授業で動画（YouTube）などの活用方法 ・ 専門分野（例えば体育学）で、コロナ禍の他大学の事例などについてのディスカッション ・ 新 LMS の KnowledgeDeliver について
2. おすすめの講演者がございましたら教えてください。できれば、講演の題名や公開されている URL をお知らせください。 ・ 他大学の先進事例などは、環境が違うといった距離ができてしまうので、自大学の情報共有によって、互いに相談しやすい雰囲気づくりがよいと思いました。 ・ 特になし／なし（2件）
3-1. ご自身の授業実践について紹介してもよいと思われる内容がありましたら、こちらにお知らせください。 ・ 知の探究について（2件） ・ 授業アシスタントの活用（グループディスカッションなどで） ・ 特になし／なし（2件）
3-2. おすすめをいただいたテーマについてのディスカッションをする際のファシリテーターについてお尋ねします。※複数回答あり ・ 私が行います（2件） ・ FD 委員にお任せします（3件） ・ 私と FD 委員で行います（2件）
4. ワイガヤ研修は機構会議終了後1時間程度を目途に実施しています。実施時間についてお尋ねします。 ・ 今のままでよい（機構会議終了後）（5件） ・ 毎回の実施ではなく、必要な時に必要な時間だけ実施することを望みます

本アンケートの回答者数は6名であった。ワイガヤ研修の参加者は20名前後であるため、この回答者数が構成員の総意というわけではないとも考えられる。しかし、少しでも参加者の希望に添った内容で実施したいと考えたため、このアンケート結果をもとに秋学期の計画を検討した。取り上げてほしいテーマや紹介してもよい授業実践について回答内容を取り込むようにした。

5. 秋学期のワイガヤ研修

当初、秋学期のワイガヤ研修は、今年度開講された「知の探究」科目を取り上げる計画だった。しかし授業担当教員および梅村機構長と相談し、次年度以降に取り上げることとなった。各回の研修内容はアンケートの結果に基づいて計画した。今年度取り上げる予定であった「知の探究」科目については、後述のとおり2名の教員から授業実践の紹介をしてもよいという回答があったため、計画に取り入れることにした。ワイガヤ研修で取り上げてほしいテーマは表3の1. で述べたとおりである。

新 LMSKnowledgeDeliver については、この時点で情報が少なかったこと、また 2024 年度から本格導入されるため、次年度の検討課題とすることとした。そのほかの要望すべてを下記のように計画した。以下に各回の概略を述べる。

第 6 回：授業での動画の利用方法の意見交換

第 7 回：「知の探究」科目について（その 1：中間報告）東田先生

第 8 回：中間アンケートについての議論（授業の改善法）

第 9 回：「知の探究」科目について（その 2：授業実践報告）武田先生

第 6 回：授業での動画の利用方法の意見交換（全体ディスカッション）

オンライン授業の増加に伴い、ビデオなどの動画を教材として使用する教員も増加しており、効果的に授業を行うための工夫が必要とされている。そのためこのセッションでは、動画教材の使用に関するベストプラクティスについて、全体で意見交換や情報交換を行った。ビデオ動画を授業前、授業中、授業後または反転授業のどの段階で利用するとより効果的なのか、学生の理解を最大限に高めるためにどのようにスキヤフォールディングを行うべきか、また著作権の問題などについて議論された。つづいてアンケートで要望されていたコロナ禍での分野別の授業実践に関して、体育学を例として他大学の状況を FD 委員から紹介した。この際の説明資料は、後日基盤教育機構スペースに掲出された。

第 7 回：「知の探究」科目について（その 1：中間報告）東田先生（発表と質疑応答）

「知の探究」は、カリキュラム改訂により今年度導入された新規科目である。「知の探究：笑い」の授業担当者である東田先生から、授業実践に関する中間報告として発表された。その内容は 3 名の教員による授業形式、作文課題とその評価、授業内容のコンテンツについてであった。さらに学生から提出されたレポートへのフィードバック方法と評価についても紹介された。時間の関係で質疑応答の時間が持てなかったが、機構所属教員にとって参考になるものであった。

第 8 回：中間アンケートについての議論（授業の改善法）（ディスカッション）

上述の FD に関わるニーズアンケートの回答として、3 名程度のグループで自身の授業実践についての話題提供と意見交換を行いたいという要望があった。第 8 回のワイガヤ研修の実施時期が、中間授業アンケート結果の教員への報告時期と近かったこともあり、グループに分かれて授業アンケート結果をもとにした各教員の授業改善をテーマに議論した。今回も各グループの議論内容は基盤教育機構スペースで共有された。各グループの記述内容を見ると、各教員が自身の授業実践の状況を振り返り、工夫していることや課題を共有しており、中には他の教員から改善提案を受けているグループも見られた。

第9回：「知の探究」科目について（その2：授業実践報告）武田先生（（発表と質疑応答）¹

来る2月15日に「知の探究（科学的知識について）」というタイトルで、武田先生による実践報告が行われる予定である。予定されている発表内容について、武田先生から本稿のために以下の寄稿いただいた。

「「知の探究」について、授業実践報告および成績評価やアンケート結果に基づく分析について報告をする。本学の教養教育において、今後「探求」という教育法をどのように位置づけていくかについて考察を加える。」

6. まとめ

春学期および秋学期のワイガヤ研修内でのグループワークにより、個々の教員の授業に対する課題には、他の教員と共通点があることが明らかになった。また、同じようにオンライン授業や105分授業に取り組んでいる教員同士による議論は、自身の課題を明確にするだけでなく、他の教員の取り組みや工夫を知る機会となっていた。さらにグループによる議論の中で他の教員に対する課題改善のための提案も行われていた。このようにグループワークによる授業改善が、ワイガヤ研修の成果の1つとして挙げられる。

グループワークに関連して、各グループの議論や活動による報告やメモの共有が2つ目の成果であると考えている。ほぼすべてのグループワークの記録や報告を基盤教育機構スペースで共有することができた。そのためワイガヤ研修への参加教員だけでなく、授業の関係などで参加できなかった教員にも記録は閲覧可能であった。この点については、該当教員からの要望にも対応できたと考えている。

3つ目の成果として、授業実践の全体共有が挙げられる。テーマであった「知の探究」科目に関しては、昨年度秋学期に全員で取り組んだ内容でもあるため、実際にどのような授業展開になっているのか、興味を持って聞いてもらえたのではないだろうか。また、他の教員の授業実践を聞く機会はさほど多くはないため、今回のような具体的な実践の発表は、授業運営のヒントを得られる機会となった。

一方で課題もある。その1つが時間配分である。ワイガヤ研修の実施時間内で、グループの成果を全体で共有するための時間が十分に確保できなかった。機構会議後に開催していることもあり、時間管理がうまくいかない場合は少なくなかった。そういう意味でも上述の基盤教育機構スペースの活用には救われたところが大きい。

分野別のFDへのニーズに添うことができていないことが2つ目の課題として挙げられる。これはFD研修のニーズアンケートの回答に要望としても寄せられていた。構成員の専門分野が多様である基盤教育機構の特殊性とも言えるが、今後検討すべき課題だと考えている。

本機構ではアクション・リサーチによるFDを目標としていたが、リサーチまで至らなかったのが3つ目の課題である。グループワークを通して、授業課題、改善提案そして実践というプロセスはある程度すすめられたところもある。しかしその検証までには至っていないため、これも今後の

課題として挙げておきたい。

現段階では来年度以降の FD について、組織改編のためどのような展開ができるかは不明である。しかし今後の FD を企画するうえで上述の課題を視野に入れて検討したい。

謝辞

ワイガヤ研修の運営にあたって、ご参加いただいたすべての先生方、そして授業実践報告をご担当いただいた東田先生と武田先生にこの場をお借りして心からお礼を申し上げたい。